

平成 25 年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：2013年4月～2014年3月

※今年度の年次報告書は担当者の名前、メールアドレス、添付資料を除き、HP等で公表します。また、ユネスコスクールの質の確保の観点から、報告書の内容が一定の基準に満たないもの、報告書が未提出の場合には、ユネスコスクールの認定取消を勧告させていただきますので、あらかじめご了承ください。

1. 学校概要

学校名 大牟田市立明治小学校

種別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 高等学校 中等教育学校
 教員養成 技術/職業教育
 その他 ()

住所 〒 836-0012
福岡県大牟田市明治町 2-21-1

E-mail : meiji-es@st.city.omuta.fukuoka.jp

Website : http://www.e-net21.city.omuta.fukuoka.jp/meiji-es/

児童生徒数：男子 91 名 女子 115 名 合計 206 名
 児童・生徒の年齢 6 歳～ 12 歳

2. 担当者 ※公表しません

3. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか ()

4. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容

○ 本校におけるエネルギー教育のねらいと教育課程上の位置づけ

本校では、平成14年度から教育課程にエネルギー環境教育を位置づけ、地域の特色を生かしながら、生活科・総合的な学習の時間を中心に

エネルギー環境教育を継続している。本年度、生活科・総合的な学習の時間の授業時数については、全校で126時間を配当し、学習を進めた。

○ 具体的な学習活動

①活動のきっかけ

本校は、かつて国内最大の出炭量を誇った三池炭坑のあった大牟田市のほぼ中心部に位置しており、校区内には清掃関連施設やリサイクル施設の他、大牟田エコサルクセンター（環境学習施設）やRDF発電所等のエネルギーや環境に関する施設がある。このような地域の特徴を生かし、平成25年度は子どもたちに「石炭のまち・エネルギーのまち大牟田」について考えさせながら、エネルギーや環境に関する学習を深めさせる学習を展開した。

②目的

学年の段階に合わせ、地域の特色を生かしながら、エネルギーと環境との関係に関心を持ち、意欲的に課題を見つけ、これからのよりよい関係について考えていこうとする態度を身につけさせる。そして、事業者等、多様なGTを招いたり体験活動を工夫したりしながら積極的に課題解決に取り組ませる。また、学習したことをいろいろな場で発表したり、自然・環境の保護・改善の活動において家庭や地域の人と連携を図ったりすることで、家庭や地域のエネルギー環境への関心も高めていく。

③活動例

③-1 < 4年生:総合「大切にしようエネルギー」 > (8時間)

単元のねらい…発電の仕組みを理解し、電気エネルギーへの関心をもち、生活との関連を考える。

手回し発電器のハンドルを回して電気をつくり出す体験をしたり、空気と二酸化炭素の温まり方の違いを比較実験で確かめたりした。子どもたちは、電気をつくり出すことの大変さを実感するとともに、地球温暖化につながる二酸化炭素の発生を少しでも抑える必要性に気がついた。そして、こまめに電気を消すこと、使わないコードはコンセントから抜いておくなど、自分たちができる節電について具体的な生活の見直しまで考え合いながら、電気の効率的な利用について捉えていった。

③-2 < 6年生:総合「科学の不思議を体験しよう」 > (10時間)

単元のねらい…様々な実験を通して、自分たちの生活はエネルギーに支えられていることに気づく。 ※地元企業の「出前授業」の活用

校区内の化学工場の方々をGTに迎え、省エネルギーの観点からLEDを使った光の色の合成の実験を行った。さらにシャーベットづくりやサーモグラフィーなど、熱エネルギーの実験も行った。この実験を通して、子どもたちは、科学の不思議にふれるとともに、自分たちの身の回りには様々な形でエネルギーがあり、それらをうまく利用することで現代の自分たちの生活が豊かになっていくことに気がついた。さらに、エネルギーの有限性についても学習を深め、限りあるエネルギーを大切に使うということ考えを持つことができた。

③-3 < 1年生:生活科「ぐんぐんのびろ」 > (14時間)

単元のねらい…地域の人と一緒に緑のカーテンづくりの活動を行い、自然の力を使った夏の涼しい過ごし方に気づく。※地域との連携

校区在住の方々を招いて、アサガオを緑のカーテン用の花壇に植える活動を行った。大人と一緒に植えることで、1年生にとっては難しい作業もスムーズに進行した。その後、熱心に水やりや草取りなどの世話を続けた結果、夏休みの間に3階のベランダ柵まで蔓が伸び、たくさんの葉を繁らせて緑のカーテンが完成した。残暑が厳しい9月を涼しく過ごすことで、子どもたちはエアコンや扇風機を使わなくても快適な環境をつくる方法があることに気がついた。また、この活動を行ったことで、地域へも自宅に緑のカーテンをつくる活動が広がってきている。

③-4 <5年生:総合「ぼくたち、私たち環境探検隊」>(20時間)

単元のねらい…身の回りの環境の現状に関心を持ち、水について意欲的に調べるとともに積極的に環境を守っていく態度を育てる。※地域の環境調査と海外との交流を通して

環境破壊をはじめとする世界的な規模の深刻な問題は、ESDのキーワードでもある「つながること」と「かかわること」を地球規模で実践していくことが、これからの人類の未来を担う子どもたちにとって大きな意味を持つ。

大牟田市と中国大同市との友好交流と国際協力については、環境教育を通じた交流の促進、学校間の連携を図ることが両市の教育担当および環境部局から期待されている。そこで、本單元においては地域の水環境について調べ・まとめる活動だけでなく、両市の水環境・水質の共通性と差異性を探る国際協力の視点まで加えた実践を行った。

子どもたちは、まず校区を流れる堂面川の水質や生き物等を調査した。次に、調査で得られた知識、情報をもとにして話し合ったり、学習支援ボランティアの方に意見をもらったりしながら気づいたことを模造紙にまとめた。さらに、中国の大同市から訪れた環境保護局の研修員の方々を招いて水質汚濁の実験を行い、環境保護の重要性を再認識するとともに、海外との交流を通じて情報や体験を分かち合うことの大切さに気づいた。また、環境破壊は世界的規模の問題であり、持続発展可能な社会をつくるため、その対応には各国が協力しあいながら行動を起こしていく必要があることにも気づいた。

(2) 活動時間について(下記から選択して下さい。)

- 通常の授業時間を使用(総合的な学習の時間を含む)
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他()